

## 第4期第12回生涯学習センター運営協議会議事要旨

〔日 時〕 2019年9月27日（木）午後3時～5時

〔場 所〕 町田中央図書館 中集会室A

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼恵一（会長）、太田まゆみ、大野浩子、白崎好邦、鈴木忠道、辰巳厚子  
服部くに子、古里貴士、向井美子、米倉茂、 以上10名

事務局：塩田センター長、田中担当課長、大野管理係長、植松担当係長、高木事業係長、  
鈴木担当係長、岩田担当係長、三橋主任（記録）

〔欠席者〕 ※敬称略

陶山慎治、堂前雅史 2名

〔傍聴人〕 なし

〔資 料〕 【1】 まちだ市民大学HATS事業に関する検討の記録

【2】 2019年度上半期事業報告資料

## 開 会

会 長：第12回生涯学習センター運営協議会を始める。次第に沿って進める。

### 1 報告事項

#### （1）センター長報告

- ・ 今月は町田市議会第3回定例会の開催月である。生涯学習センターに直接関わる一般質問はなかったが、1人の議員から「震災に関する支援やその他の取り組みについて」質問があり、答弁の中で生涯学習センターの平和祈念事業に触れた。
- ・ 平和祈念事業は今回、生涯学習センターと『ヒロシマ「」継ぐ展実行委員会』との共催事業として実施した。プレイベント、メインイベント合わせて、延べ参加者数は昨年度より787人多い、2,286人だった。共催実施により内容が充実し、イベント数が増えて6階・7階をフル活用できたこと、スタンプラリーの実施等による来場者の回遊性を高める工夫ができたこと、共催団体によるSNSの活用や働きかけによりマスコミに例年より多く取り上げられたことなどの効果と考える。
- ・ 来月実施する「生涯学習センターまつり」は、日頃、生涯学習センターを利用いただいている方たちの活動・成果発表の場として、団体同士のつながりを広げる機会として、また、生涯学習センターを知っていただく、足を運んでいただくきっかけづくりとなるよう取り組んでいる。日程は、10月25日（金）～27日（日）の3日間。

#### （2）東京都公民館連絡協議会の活動について

委 員：資料3に基づき説明する。8月27日に第5回委員部会運営委員会が小金井市で行われた。報告事項は7月23日実施の第2回役員会について、PRが大切ということでのホームページの作成は継続審議となった。来年2月昭島市で開催の東京

都公民館研究大会企画委員会からの報告では、大会のメインテーマが「公民館の役割、再発見～新たな広がりをめざして～」に決定した。協議事項は、9月7日の委員部会第1回研修会講師の越村先生との事前打ち合わせ内容や研究大会で11市の事例をまとめた事例集を作成・配布することなどを決定した。情報交換は元国立市公民館長・荒井敏行氏から「住民自治を育む公民館の学び―指定管理者制度や受益者負担の論理に抗するために―」という題で話があった。9月7日の研修会では、越村先生の講演「公民館の活性化～若者に魅力ある公民館にするには～」とグループごとの意見交換を行った。

### (3) まちだ市民大学HATS事業検討委員会報告

事務局：資料【1】に基づき説明する。

検討委員会のメンバーは9名で構成。運協から堂前委員、辰巳委員、白崎委員の3名。プログラム委員は各分野から1名ずつの計7名。堂前委員は運協とプログラム委員を兼務しているため座長になっていただいた。5月14日～8月6日までの全5回実施。委員会開催の経過としては、市民大学全体を見渡すものが必要という意見が第2期・第3期運協から出され、今回組織ができたため実施した。検討内容は「課題・アイデア」にまとめている。特に職員から事前アンケートを取った。今回「報告書」ではなく「記録」としたように、結論を出したのではなく、会議録の中から色々なヒントを抜粋したものになっている。「改善のためにできること」として「短期的な課題」と「長期的な課題」に分けてまとめている。

委員：運協委員を代表して会議に出たが、HATS委員もやってきた。どうしても受講生が偏ったり、受講生を伸ばせないことが一つ大きな問題だと感じ、改革したほうが良いという気持ちで参加した。しかし、少し違うと思った。今までは全体の市民大学を見る組織がなく、意見を言える場がなかった。今回それができて役割の半分は達成された。参加したプログラム委員の先生方は、テーマや時代に合ったプログラムにしようとして一生懸命考えられ、学習に対して真摯に取り組まれている。その気持ちを聞くとその通りだなと思い、何から手を付けたらよいか迷い、新しいものをうち出す結論にまでは至らなかった。多分、2年前の報告書を作った運協の会議の方が、より具体的な討論ができたと思う。受講生を増やさなければいけない、創設以来の経年変化の中で変えるべきと思っていたが、それを推し進めるのはどうかと思った。例えば「あなたを励まし、地域を育てる」市民力を育てる学習は日頃から必要だと考えているが、それを市民大学でやるべきか、検討はできなかったが、他の講座の中でやった方が臨機応変にできると思う。ただ、〇ごと大作戦が終わる頃、市長を学長に迎えて最初の挨拶をしてもらい、もっと市全体で市民大学を盛り上げていこうと皆の総意でまとまった。

委員：今回の会議は運協からの「1.俯瞰する組織が明確でない」「2.地域に学びの力たちを強化すべき」この2点の問題提起に基づき開催された。今回、具体的提案は

されなかったが、問題やアイデアが出され、新大学のプログラムはこのように 検討したほうが良いというふうにとまとまった。新プログラム委員はこの報告書に十分に目を通して作り上げてくれれば良い。委員会自体も意義があった。今まで分野ごとの話し合いはあっても、横のつながり、意見交換の場は無かったようだ。このような場は今後とも必要である。また、入学式、卒業式など、大学なので学長も置いてという夢のある話もあった。

事務局：来年度に向けての話し合いを始めている。今年度から開始した堺市民センターを会場にした健康学以外の講座で行おうとしたが、会場が隔週でないと借りられず、やりたかった講座が収まらないため、市民大学は諦めて別の講座で実施することを検討している。また、各プログラム会議の進捗状況を他の講座とも共有化し、テーマが似ている講座の日程は重ならないように、反対に、注目されているものは切り口を変えて重ねて実施することや、既存の講座の回数を減らし、新たにアートの講座を試しに始めること等を企画している。

#### <質疑・応答>

委員：検討メンバーの『「講師・プログラム委員や受講生として市民大学を承知していること」を条件とした。』は間違い。前回も言ったが、これは選択バイアスの罠。限られた自分たちの中だけで悩みを聞き合っても受講生は増えない。市民大学のプログラムを見てもつまらない、見向きもしない、関心を持ってない、と距離を置いているのが8割。今までやっている先生は自分から変えようなど言わない。記録を全部読んだが、本当に受講生を増やしたい、もっと関心をもたれるようにしたいという願望があるのなら、もっと広く意見を求めないと。毎回このことは言っている。もっと関心を持たせる、受講者を増やすためにはどうしたら良いか考えてほしい。今回、アートの話は出たが、テクノロジーの話は出てこない。何度もテクノロジーの講座が無いことを話しているが、誰もフォローしてくれない。現代社会でテクノロジーから距離を置くのは感心しない。スマホ決済はどうしたらいいかなど、生活に密着したケースが出てきている。アンテナ高くして、「では、市民大学で聞いてこよう」と思ってもらえるような講座を作っていくかないと。浦安市のワークショップで意見募集をしたとあるが、これも一つのアプローチ。いっぺん生涯学習センターのホームページで「皆さん知恵を貸してください」みたいなことをやってみたらいい。前回アイデアソンの話をしたが、窓口を開く気持ちがあるのなら「私もアイデア出したい」という人は絶対いる。ぜひ、そういうアクションを1回してほしい。この会議を否定するものではないが、絶対いい意見は出てこない。

事務局：今回は5回で行うため、「市民大学とは」という説明時間が惜しく、ご存知の方で実施した。意見の求め方は考えていきたい。テクノロジーは人間科学講座の中でやっている。

委員：〇〇委員の話はもっともで、事務局も分かっていることだが、一朝一夕にはできない。浦安市のことは、50人位しか来ないだろうと思っていたが500人集まり、思い切ってやるのならこのぐらいのことをという思いで紹介した。皆さんか

らも賛同を得た。今後やってみると良い。

会 長：職員アンケートはどのような範囲の職員で行われたのか。

事務局：正規、嘱託含めて10人位に、悩んでいること、困っていること、提案等について行った。

会 長：それは良いと思う。また、色々なアイデアが出て面白いと思った。短期間でうまくまとまっている。例えば「プログラム委員を法律と国際で分けてはどうか」とか、逆に「一緒にした方が良い」など、プログラム委員の構成も流動的に考えてよいのではないか。入学式を行うとしたら年に1回なのか2回なのかなど、もっとつめてもらえたら。今後も引き続き、2年に1回位でやることになったのか。

委 員：プログラム自体は「インターバル設けてやった方がいい」という意見が出た。春を作ったらすぐに秋というように検討する時間がない。1回休んで、その間はアートを入れて、休んでいる間に今、世の中は、市民は何を望んでいるかなど検討し次を作っていく。〇〇委員の「もっと市民の意見を取り入れて」というのは走らせながら、別途、違う組織で新しい市民大学を考えていく、というように 並行していかないと、一つずつやっていったのではできないと思う。

会 長：尽きない議論だが、市民大学については次の議題にも出てくるので議題に移ります。

## 2 議 題

### (1) 2019年度上半期事業分析について

会 長：事務局から担当する事業別に資料【2】に基づき報告する。本日これから事業のある担当者の分を先に説明する。

事務局：市民大学・町田の歴史は50名の募集に72名の応募があり、講座の満足度や理解度は高かった。課題は講座終了後の15分間の交流会について、良かったが46%、どちらでもないが37.8%という結果のため、構成を考えていく必要がある。

ことぶき大学 探・探ゼミナールは、運協皆様のご意見によってつくられた調べ学習を基にした講座で今熱心に取り組んでいる。

障がい者青年学級は163名の学級生と共に65名の支援者・担当者が活動している。継続的な事業なので明確な評価はとっていないが、今年の結果は入会希望者全員を受け入れることができたこと。例年は抽選になった。課題は担当者不足による活動への支障が出てきていること。SNSなどでも担当者募集を行っていく。

地方史研究会共催講座は8月に実施。内容は良かったが周知が甘く、158名定員に受講者67名だった。次回は開催時期など検討していきたい。

会 長：ご意見、提案などどうぞ。

委員：町田の歴史の男女比はどのくらいか、男性が多いか。

事務局：過半数は男性。しかし、昼間開催にして圧倒的に女性が増えた。

会長：障がい者青年学級の課題は前回から出ていた。施設関係者へのPRなどは具体的にどうなっているか。

事務局：「まちされん」との共催の学習会を行うが、そこで青年学級の理解・支援者になってもらえるようにしたい。

会長：施設職員に対するチラシ配布をすると良い。職員が土日に何かやってくれる可能性はあると思う。

事務局：ありがとうございます・

委員：地方史研究会の応募者が少なかった理由は時期ということだが、アンケート結果によるのか。

事務局：8月下旬に実施したが、例年8月の平和記念事業終了以降は事業をしていないため、チラシ等配布機会がなかった。

委員：日程が合えばもっと来たことが考えられるということですね。

委員：共催とはどういう内容なのか。

事務局：企画から講師交渉まで中身はすべて地方史研究会が行い、センターは場所の確保や研究会作成のチラシを加工した広報掲載・チラシ配布した。

委員：広告はすごく大事。どんなにいいことやっても知れ渡らなければ、シャッター閉めてラーメン屋さんやっているのと同じ。行政や学校はそこが弱い。興味が湧くインパクトあるチラシの工夫が必要。

事務局：頂いた原稿にとらわれずということですね。ありがとうございました。

委員：8月の一番暑い、時期も悪いと思う。行く前に断念する。

委員：「知った媒体で多かったもの」をやってくれたので良かったが、NAV Iがどこにもない。町田の福祉で「生涯学習NAV I・市民大学募集案内・その他」で丸めている。NAV Iを知らない・読んでない人は8割。「広報まちだ」を知らない・読んでない人は3割。新聞に入っている広報は見る。NAV Iの使命は半分以上終わっている。前回、また議論しましょうとなっているので、このデータからも再検討してもらった方が良い。「広報まちだ」にもう少し押し込めないかと思う。

委員：「広報まちだ」はすごく制約があり、回数も減らしたため載せられない。また、新聞の購読を辞めたお年寄りも増えている。

事務局：ことぶき大学は募集冊子があるので別だが、公民館講座のイベント類はNAV Iが3番目に多かった。この資料には2番目までしか載せなかった。1番広報、2番チラシ、3番NAV I、4番知人、5番ホームページなど。

会長：続けて市民大学の他の事業について説明してください。

事務局：多摩丘陵の自然入門は特徴的なところとして、生涯学習センターに初めて参加した方の割合が48.1%で、初めての方が入りやすい講座になっている。応募者は37人で、定員に対して0.74倍の定員割れとなった。しかし、屋外の活動が多く、担当者3人で対応しているが、実際に50人来るときつい状況がある。

環境講座の前期はフィールドに出て環境保全活動を体験してもらうことが主の全8回で実施。成果として40代から70代まで幅広い年齢層が参加し講座内容は全員満足で、今後もエコに取り組む方が85%と環境意識につながった。課題は倍率0.5倍と応募者が少なかったので、効果的な工法や周知と、ややマンネリ化した講座内容の検討が必要と考えている。また、今年は雨天日が多く、野外実習ができなかったことについて検討が必要。

国際学の中で「安田純平、シリアを語る」は多くの方に受講してもらいたく、公開講座で会場を市民フォーラムにした。通常を受講生120名に公開分70名を募集したところ、239名応募があった。一番定員の多い講座だが、毎回抽選になり、今回もそうだった。また、休憩時間に修了団体3団体が会員募集のPRを実施し、1名が加入された。課題は修了後の交流会に9名しか集まらなかったこと。

人間関係学は人間関係の講座。成果としては、この学びを今後に生かしていきたいという方が9割以上いたこと。課題は受講生が定員の6割程度しか集まらなかったため、PRが必要。また、公開講座を「児童虐待と叩かない子育て」としたが、開催時間が夜間であり保育が付かなかつたため、子育て中のお母さんなどが受講できず、予想よりも少ない結果となり、改善の余地がある。

“こころ”と“からだ”の健康学は、市民大学が初めて外の堺市民センターで開催した講座。ホールが生涯学習センターより広く、駅から徒歩6分と近いことで決めた。その効果で、生涯学習センター主催講座に初めて参加した方が7割でした。ただ、地域的に限定されたため、定員割れとなった。今後は他の講座でも各地域で実施していきたい。

まちだの福祉の特徴は、夜間でないと来られない人もいるだろうということで、昨年度の昼間から夜6時30分から8時30分に変更した。結果、定員30人に応募者27人で定員割れとなった。出席者には教員や会社員など、昼間では応募できない方がいるので狙いは達成された。今回の特徴として、講義終了後30分間グループディスカッションを実施し盛り上がり、参加するだけでなく何か持ち

帰られるものがあったと思う。8月にプログラム委員と総括したが、昼間参加したいという声もあった。例えば、昼間と夜間ではプログラムに期待する傾向も違うところがあるため、前期と後期で入れ替えるなどの意見があった。来年度に向けて検討していきたい。

会 長：残りの市民大学について、ご意見、提案などどうぞ。

委 員：自然入門について、今0.74倍だが、実際に50人来るときつい状態ということだが、定員50人に設定しているのはなぜか。

事務局：年間なので、最初は50人位出席するが、だんだん減るので最初はきつくてほしいほどほどに落ち着くかなということで設定している。

委 員：安全が保てないならば実態に即した人数にした方が良くと思う。やっていて50人で事故の恐れなど感じないか。

事務局：今のところ大きな事故はない。例えば、先日の後期の第1回目は午後から土砂降りになり、途中で終了、昼ごはんも無しで、その場で解散になった。その際、バス停が2か所に分かれ、遠いバス停から帰る人達はかなり降られたと後で聞いた。自然との難しさがある。第1回目は講師一人だったが、保全の方たちが講師になるので、補助者の方たちが何人か入って職員と見守りしている。

委 員：昨年もあったが、昼やるか夜やるかで集まる人達が違い、開催日も真夏は来れない。新しい課題だ。他市はどうか。

会 長：小刻みに変えているということもある。

事務局：歴史は夜から昼に変えて女性の参加が増えた。市民国際学は昨年7時開始9時終了だったが、途中の8時半ごろからバス時間等により帰宅する方が多くいた。今年は講師とも調整し、6時開始8時終了にしたため最後まで受講されている。

会 長：試行錯誤し、分析して集まりやすい時間帯を探している。

委 員：自然入門は日曜日だが、また、国際学などの参加年代は統計を取っているのか。

事務局：アンケートは取っている。自然入門は50代から70代の方が多い。去年は3歳と5歳の子どもと一緒に30代の家族が参加した。今年は中学生のグループで3人集まれば資料代一人分で良いとPRしたが応募はなかった。国際学は40代から80代で一番多いのは70代。

委 員：火曜日夜間の国際学で一番多い方は70代ですか。

事務局：80代の方も10人いる。

委 員：中学生の話があったが、中学生が一番忙しく中々参加は難しい。また、市民大学は大人のもので、子どもや家族・親子で参加ができると思っていない。そこをもっとアピールすると良い。私の現場は自然の好きな方が多いので、最初から

あきらめないで済むと思う。転入してくる若い家族に「まちだの学び」みたいなアピールする機会があると良い。行政からの情報は安心感があるので、引っ越してきて、町田を知るにはこんなことがあるなど。

会長：市民大学の中にも、転入者に情報を提供した方が良いというのがあった。

では、次の事業の説明をしてください。

事務局：公民館事業について、まちチャレは市民提案型事業「講座づくり★まちチャレ」が正式名称です。倍率3倍で採用された5団体に各職員2人がついて準備している。「ゆるっとママ」「親子で備災」「ロコモ予防」「町田の歴史・文化とまちづくり」「最期まで自分らしい生き方」です。

平和祈念事業は、今回、ヒロシマ「」継ぐ展と共催で実施したため、普段の倍以上の多種多様なイベントが展開できた。「」継ぐ展は今までも単独で横浜などで実施してきた団体。今回生涯学習センターとしっかり組んで実施した。成果は色々あるが、調整に時間をかけ、今までの事業とは趣が違っていた。行政が行う事業とは違う視点の事業展開を職員は経験できたと思う。平和に限らず市民の力と一緒にやる事業がセンターには必要と思う。開催日は原爆の日で設定したため、平日になった。しかし、土日でないとなると来られない人もいるので調整していきたい。

家庭教育支援事業は、通年事業で実施しているが、特徴的なのは「パパと一緒にきしゃポップ」で家庭教育支援事業に男性が参加する機会はあまりない。妻に言われて参加した方も多い。継続して参加する方も増えてきたので、意見を聞き男性向け家庭支援事業に反映していきたい。乳幼児の保護者向け講座は参加者がディスカッションできる時間を意識的に設け、グループワークしている。

コンサート事業は、生涯学習センターを知っていただくための講座なので、参加者には色々なチラシや冊子類を渡している。サマーコンサートは小さいお子さん同伴OKにしたので喜ばれた。

和光大学共催講座は毎年、大学の教授に来ていただき開催している。30名定員の内22名が女性で夜の講座にしては非常に高かった。しかし、シニア世代が中心で若い世代にまで広まらなかった。

利用者交流会事業は、日頃センターを利用している団体の横のつながりを持つということをやっている。その中で分科会に分かれての意見交換が好評で、その成果として自主グループが4つ新たにできた。また、まちチャレの団体に引っ張られ、組織が拡大した団体もある。

国際交流センター共催講演会は毎年実施しているが、例年ダンスなどの出演者のつながりで参加されていたが、今年はパワー不足で参加者が少なかった。前半に子どもたちの民族衣装を着たダンスがあり、後半で高校生が自国名産品の紹介をした。



委員：平和事業の「」継ぐ展との共催について、どういうところが大変だったか。

事務局：スピード感が違う。チラシづくりや、やり取りも、彼らはメールやラインの世界なので、反面、センターは個人情報を守らなければいけないなど制約を受けながらやっている。その辺の噛み合いが、例えばチラシづくりについて、センターは段階を追って作っていくが、彼らは70%80%の段階で発信していく。その辺がうらやましいところもあるが、何かあったときにはと考える。

委員：個人情報はガイドラインなどがあり、今後はどう調整していくのか。

事務局：最初からダメだよと言うのではなく、我々も初めてのことだったので経験を積んでいくことだと思う。

委員：経験積むのは時間がかかりますね。

事務局：生涯学習センターの支援の仕方も色々ある。ただ一緒に共催事業するのか、彼らが自由にできる場をセンターが提供するのか、今回は融合して実施した。今後、考えていきたい。

委員：平和記念事業について、NHKで放映されたが。

センター長：NHKの6時台とローカルの番組で取材が入った。7階の「」継ぐ展エリアがメイン。「」継ぐ展代表の方の働きかけで取材に繋がった。テレビ以外にもNHKラジオでも取り上げていただいた。テレビを見て足を運ばれた方が多かった。我々とは違うアプローチやスピード、SNSのインスタグラムやツイッターなどで情報拡散され、町田市以外からも来られた。情報発信について見習っていきたい。

委員：はだしのゲンのアニメ映画について。漫画を置いてはいけないなど学校によっては色々問題がある中で、この映画があるのは良かった。子ども時代にこの漫画を読み、映画も見たが衝撃的だったが、読んでよかった、見て良かった。現場で来られなかったが子どもに見せたかった。どんな感じの人たちがどのくらい来たのか。ぜひ、またやってほしい。

事務局：午前中40名、午後96名。学習室1、2を繋げて実施。最初4、5人位かと思っていたが、高齢の方も多く、子どもたちが真剣に見ていた。20年前から公民館でやり続けている映画なので、もうそろそろ「もういいや」と思われているかと思ったが、込められている思いは受け継がれていると思った。お爺ちゃんお婆ちゃんが小学生の孫を連れてきていた。

委員：火垂るの墓に負けてないですね。

会長：次の事業の説明をしてください。

事務局：ことぶき大学は、「楽しく学んで豊かに生きる」がモットー。東京都の補助金を受けているので60歳以上の町田市民の方と限定している。無料で受けていただく。

文学コースは助川先生がキャラクターの濃い、人気のある先生で今年4年目、色々変えて実施している。

歴史コース、今回は合戦がテーマ、町田の方は歴史好きが多いので倍率が高かった。

生きがいコース、他のことぶき大学と違い、毎回テーマや講師を変えて行っている。倍率は0.9倍でほぼ定員人数。それぞれ関心を持っていただき、内容が良かったと感想をいただいた。課題は、残念ながら第1回目の講師の方が遅れ1時間遅れで開始した。退席された方もいたので、再度開催した。今後は、講師の先生との連絡は一層徹底していきたい。

音楽コース、ここ数年実施しているが応募者が毎回2倍を超える人気講座。初めて生涯学習センターに来る方が多い。先生が元気で皆を活気づけてくれるので、この後もこの先生と続けたいと希望する方が多く、35名の方で自主団体「ミーヨ」ができた。去年も「オーソレ」ができて姉妹団体になっている。年1回合同練習しようかと言う話も出ている。

会 長：ご意見、提案などどうぞ。

委 員：音楽コースで2回目の参加人数が77名に減った理由は。

事務局：分からないが、時々ことぶき大学ではある。抽選結果のハガキをどこかに忘れてしまったり。途中でケガして来られなくなったり。音楽コースは初めての方も多いので連続して来るのに慣れていない方もいると思う。

会 長：では次に生涯学習推進事業の説明をしてください。

事務局：学習情報の収集・発信については、スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けてQRコードの付いた小さいカードをセンター周辺の店等に置いていただき、周知を始めている。

委 員：それはどうやって使うのか。

事務局：QRコードから、NAVI情報に繋がるようになっている。ツイッターは先行して図書館や文学館で始めているので、準備して10月から始める。

学習相談について、多くは事業の申し込みやチラシがほしいなどだが、中にはこういうことをしてみたいという相談がある。その際にうまくつながり、ことぶき大学や市民大学の申し込みをその場でやることもある。

生涯学習ボランティアバンクの4月から9月の申し込みは16件、新たな登録は7件あった。利用ガイドの表記の見直しを行い、より詳細にして5月にリニューアル発行した。広報及び町内会自治会の代表者へ周知チラシを送付したが、まだ周知が足りないので、引き続き周知していく。

連携組織のさがまちカレッジについては、今までセンターのみで実施していたが、なるせ駅前市民センターで全3回で実施、また、各子どもセンターとも共催実施を調整している。

生涯学習センターの部屋の貸し出しについて、実績値で4月から8月はホール及び諸室共に前年より4ポイント上がっている。利用登録件数はほぼ横ばい状態。

10月1日から全庁的に消費税率改定による利用料を改定。500円は変わらず、600円以上が変わる。

特別教室は、地域の方たちに使っていただくため解放・利用いただいている。学校運営に支障がない範囲での開放だが、利用率が低いのが課題。

会 長：ツイッターの実施はいつからか。

センター長：現在課内での使用マニュアル作成などを行っている。まつりに標準を合わせて実施していく。

委 員：「ご近所SNSマチマチ」は使っているか。民間が開設しているネット上の掲示板で広報広聴課が利用している。登録すると自動的にメールで情報が届く。ネット掲示板の活用を考えるとどうか。ただし町田市が使っている。そこに細かな情報をいことを載せるとインパクトに欠ける恐れがあるので、~~しょうちゅう来てしまうので、~~大きなイベントや公開講座まつりなど載せると良い。

会 長：以上で議題は終了します。次にその他の説明をお願いします。

### 3 その他

#### (1) 課の仕事目標の中間確認について報告

センター長：年度当初に説明した課の仕事目標の進捗状況について、資料4に基づき説明する。ホームページ上では中間確認として公開される。

1. 学習情報の発信力の強化は、スマートフォン版「生涯学習NAVI」の利用促進に向けたQRコードの導入や新たな情報発信媒体として連携団体の広報誌への講座情報の掲載による周知など実施。

2. 生涯学習センターの利用促進はSNSの運用や地域団体と連携したPR活動を実施。

3. 地域の課題解決に向けた学習支援は、地区協議会と連携した講座を実施。

4. 市民提案型事業の推進は、15団体の応募から5団体を決定し、これから開催に向けて準備する。

5. 陶芸事業のあり方検討は、陶芸窯の経年劣化による安全性や修了団体との調整、市内陶芸教室の調査など実施。

6. 職員の業務スキルの向上は、課内研修を実施。

会 長：質問ありますか。

委 員：「スマートフォン版生涯学習NAV I」という言葉はこの会議で聞いたことないので、定義を付けてください。SNSの情報発信について、こういう発信をして何を期待していますという定義づけをしてください。効果・評価方法はどう考えているのか、PDCAサイクルに基づき書いてください。

会 長：スマートフォン版生涯学習NAV Iというのは、今検討しているということか。

事務局：市のホームページ自体が、既にパソコン版とスマートフォン版で公開している。ただ、階層の深いところにあるので、QRコードで簡単に行けるようにした。インターシップの学生の助言はもっとSNSを活用して、ツイッターで生涯学習NAV Iの周知をすることです。

委 員：スマートフォン版は、冊子の生涯学習NAV Iが見られるということで、情報そのものには行かないのですね。イベントカレンダーが出てきた方が便利ではないか。

事務局：スマートフォン版生涯学習NAV Iは電子データでそのものが見られるものとなっている。

委 員：何をねらっているのか分からない。

事務局：まだ、冊子でしか見られないと思っている方が多いので、スマートフォンでも見ることができる。また、冊子で配布しているものはカラーではないが、スマートフォンではカラーになっている。

委 員：グーグル検索すればすぐわかる。

会 長：冊子で持たなくても良いので便利だと思う。

事務局：冊子がメインでホームページで見られている方は少ないので周知していきたい。

委 員：カルチャーセンターも色々なパンフを作っている。冊子と新聞形式のものと皆がどのくらい持ち帰るか調査している。新聞形式の方がバックにも入るし多い。その新聞に全てを載せるのではなく各講座のQRコードを掲載すると良い。冊子と同じものをただ載せるのであれば検索すれば良いので工夫がほしい。

委 員：インターンと相談するのではなく、この会議の場に相談したほうが良い。

会 長：今後、また検討していただきさらに良くなることを期待している。

(2) 次回開催日時について

第13回 2019年11月21日(木) 午後6時～8時 学習室1.2

会 長：本日は長時間ありがとうございました。これで終了します。